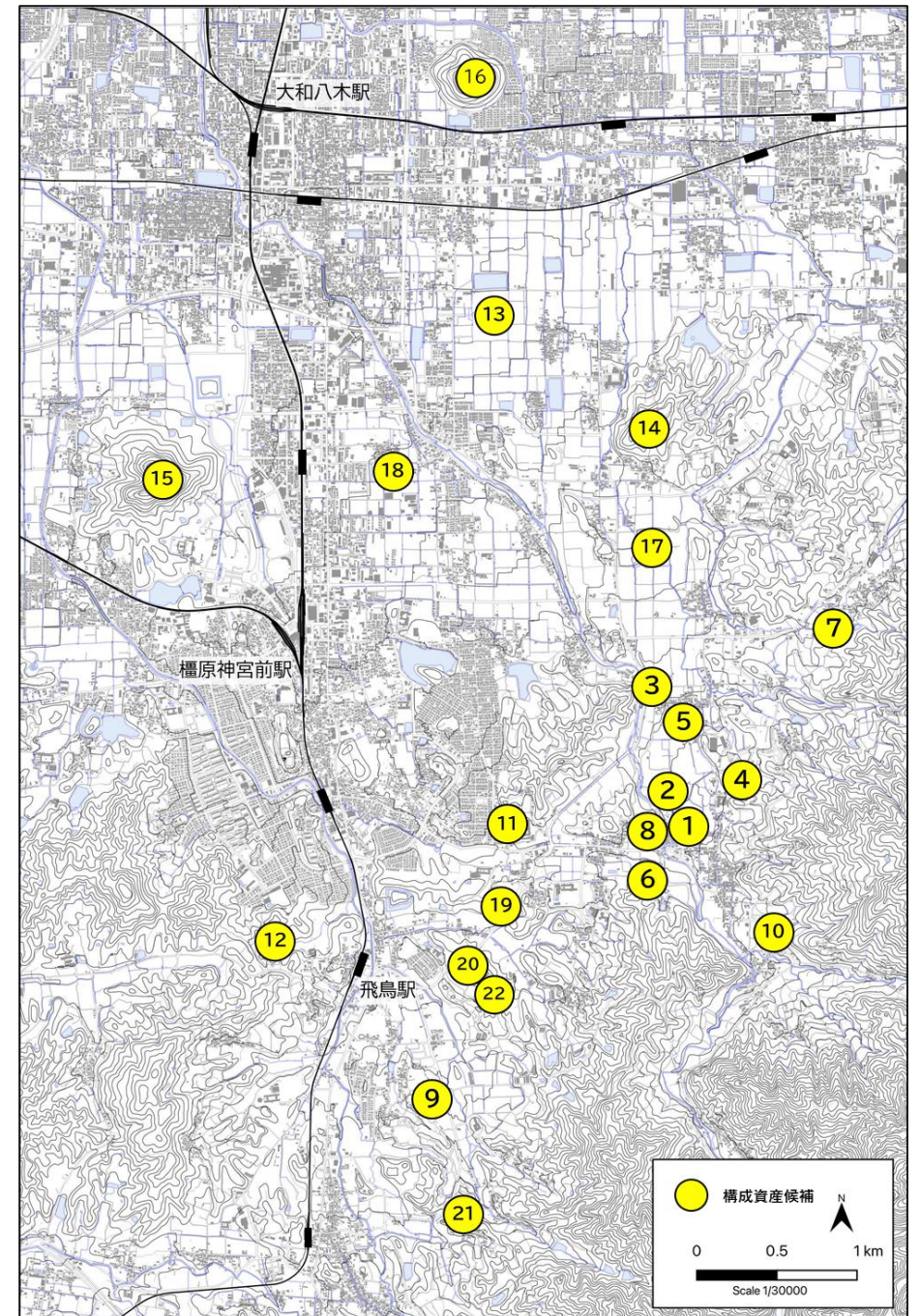


「飛鳥・藤原」の概要について

構成資産について

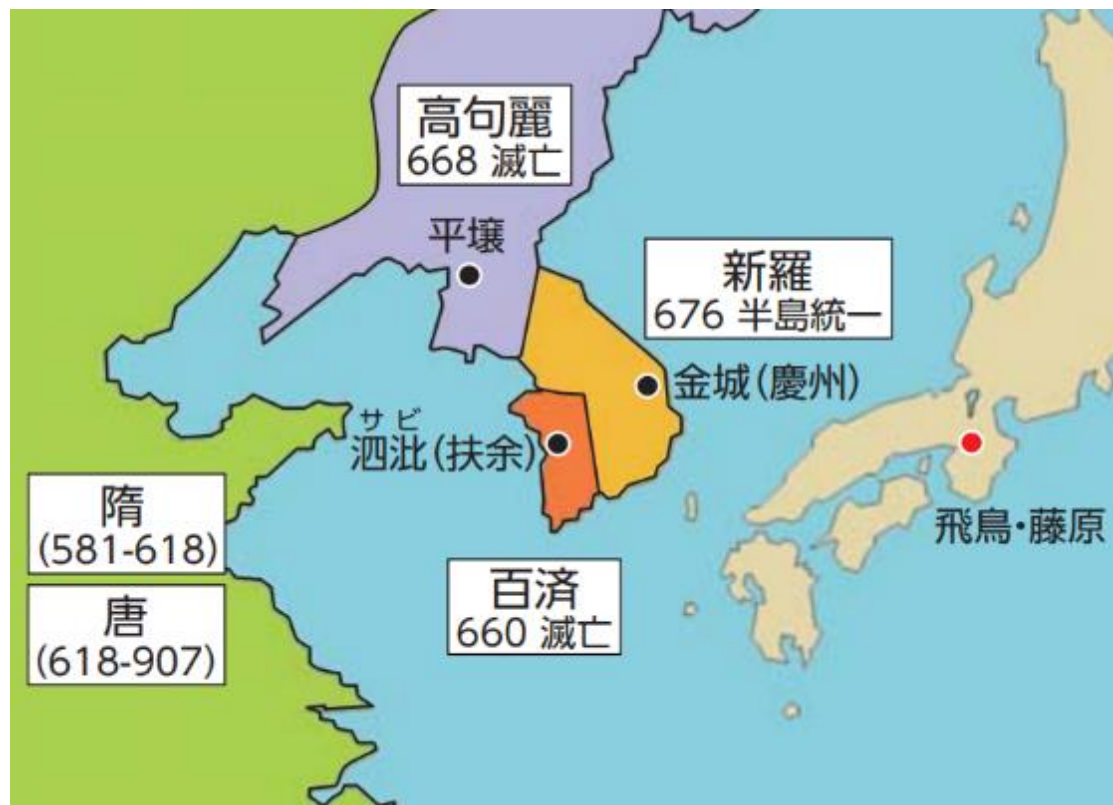
- ◆ 「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」
（以下、「飛鳥・藤原」）は、宮殿・官衙跡、仏教寺院跡、墳墓などの考古学的遺跡等で構成されています。

構成資産候補		
01 飛鳥宮跡	09 檜隈寺跡	17 大官大寺跡
02 飛鳥京跡苑池	10 石舞台古墳	18 本薬師寺跡
03 飛鳥水落遺跡	11 菖蒲池古墳	19 天武・持統天皇陵古墳
04 酒船石遺跡	12 牽牛子塚古墳	20 中尾山古墳
05 飛鳥寺跡	13 藤原宮跡	21 キトラ古墳
06 橋寺跡	14 大和三山（香具山）	22 高松塚古墳
07 山田寺跡	15 大和三山（畝傍山）	
08 川原寺跡	16 大和三山（耳成山）	



「飛鳥・藤原」の価値の概要①

- ◆ 東アジアの東端の日本列島中央に位置する「飛鳥・藤原」は、中国の律令制度を模範とした**中央集権体制に基づく宮都**が日本ではじめて誕生した**証拠**です。
- ◆ 東アジアが前例のない国際的な緊張関係にあった時期（7世紀）に、積極的に中国大陸や朝鮮半島からの渡来人を受け入れた**日本列島と東アジアとの政治的・文化的な交流**によるものです。

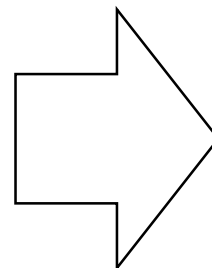


「飛鳥・藤原」の価値の概要②

- ◆ **飛鳥の宮都**では、天皇の居住する飛鳥宮に政治権力が集中し、徐々に宮殿を中心に官衙・統治機能が宮殿の周辺に展開していきました。
- ◆ **藤原の宮都**は、中国の律令制度を模範とした中央集権体制を具現化するために計画的に造営されました。官衙機能も内包した藤原宮が、宮都の中心に配置されました。
- ◆ **飛鳥の宮都**から**藤原の宮都**への変遷は、日本列島における中央集権体制に基づく初の宮都の形成過程を示しています。



中央集権体制のはじまり

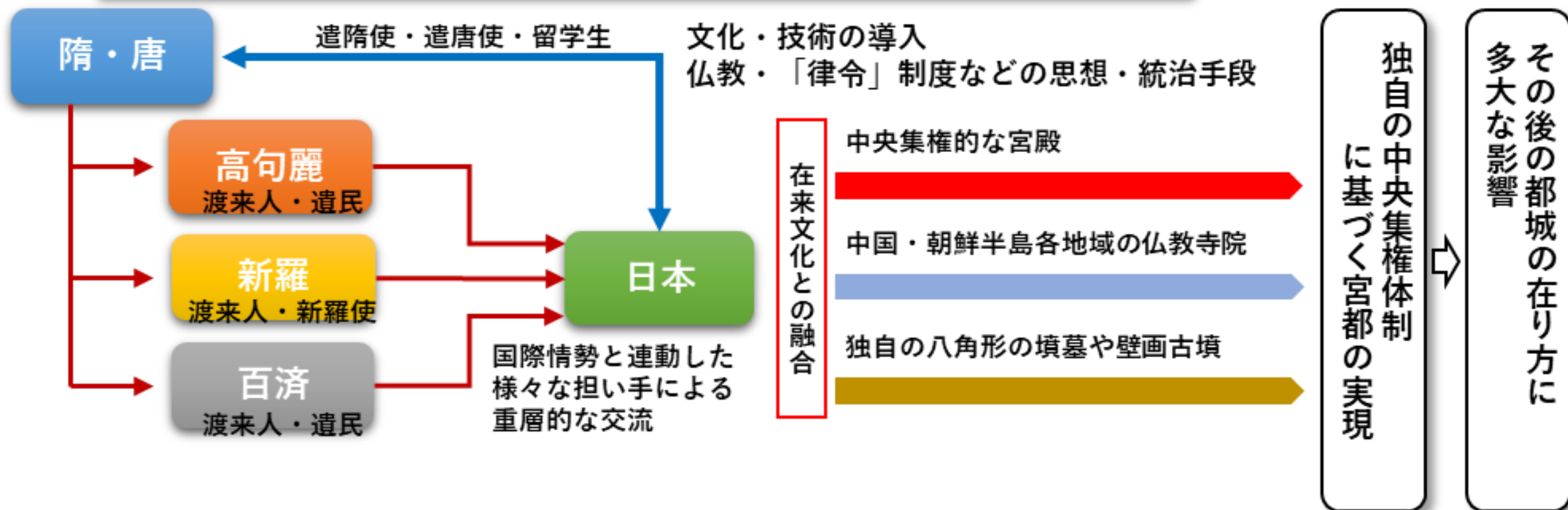


中央集権体制の完成

評価基準 (ii)

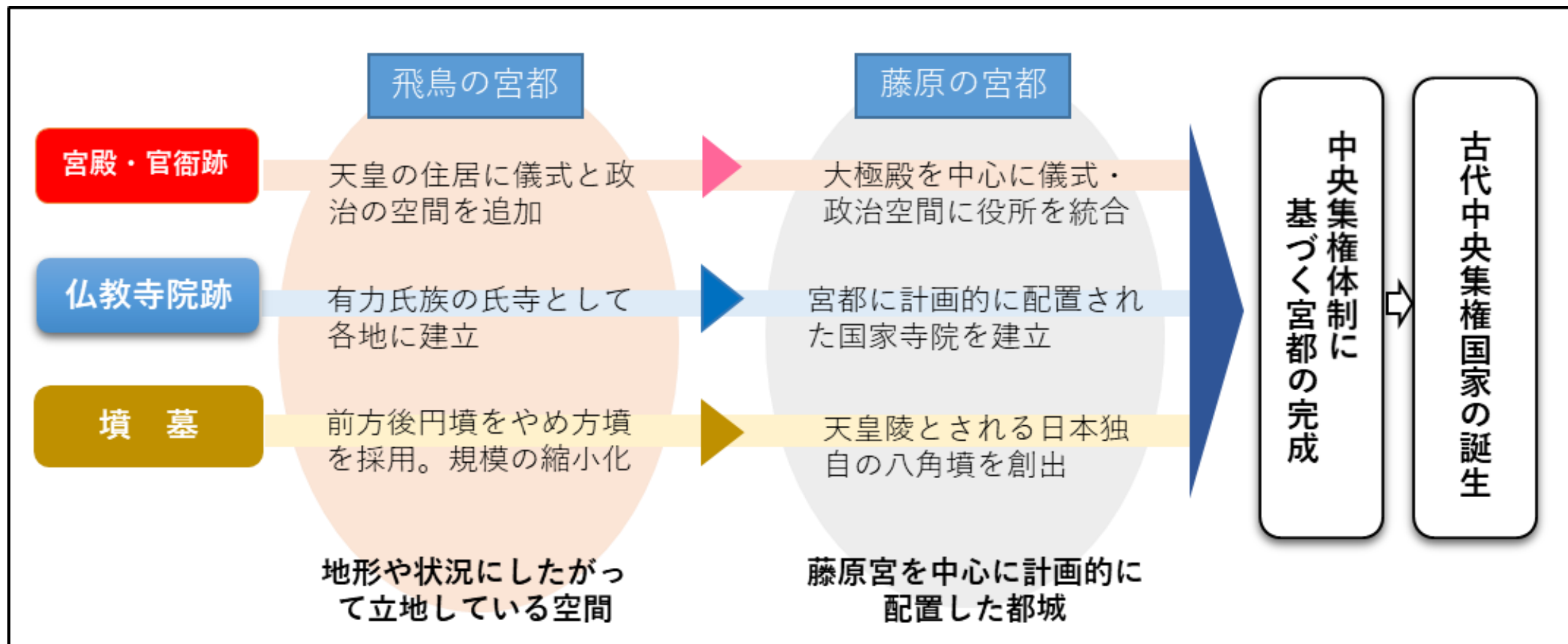
「飛鳥・藤原」は、建築・土木などの分野における価値観の交流の所産であり、その後の日本の古代宮都に多大な影響を与えました。

緊迫した国際情勢に対応した強い国づくりをめざし、最新技術と文化を求めた



評価基準 (iii)

「飛鳥・藤原」は、古代宮都の形成過程を端的に示すことができる証拠です。



世界遺産登録に向けて

「飛鳥・藤原」世界遺産登録に向けての課題と対応

- ◆ 令和5年7月4日の文部科学大臣会見時に、文化審議会世界文化遺産部会の意見が示された。
- ◆ 示された5つの意見（課題）の内容は以下のとおり。
- ◆ 課題の解決に向け、**奈良県、橿原市、桜井市、明日香村が連携し対応を行っている。**

課題

資産の保護を万全とするための文化財の追加指定等の取組継続

関係省庁・関係自治体等による連携体制構築、世界遺産として一体的に保護していくための共通認識構築

顕著な普遍的価値の更なる精査、構成資産の精査

世界的価値について国際的な理解を得るため、海外の専門家との対話等を通じた検討及び説明ぶりの精査・充実

資産の整備・活用における、世界遺産としての包括的な方針の策定

対応

飛鳥宮跡や藤原宮跡などの構成資産の史跡追加指定を拡充した

関係省庁と関係自治体で包括的な管理体制を構築することを目的とした会議体を立ち上げ資産の保存管理についての認識を共有した

専門委員会に意見を聴取し、構成資産の価値と資産の適合性の精査を行った

令和5年に、海外の世界遺産有識者を招聘した国際会議を実施し、アドバイスをもとに推薦書素案の磨き上げを行った

関係機関と協議し、資産全体の整備・活用方針を推薦書素案・包括的保存管理計画書に示した